

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・暖かくなったので、ゴールデンウィーク以降も客の流れが活発になっている。特に観光客の入り込みが多くなっている。
		観光名所（役員）	販売量の動き	・ロープウェイの輸送人員、レストランの売上高等が前年実績をかなり上回っている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク以降も天候が安定していることから、道内からの観光客が例年以上に多く、飲食店では前年実績を上回った店が多かった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・ゴールデンウィーク中の買上客数に例年ほどの落ち込みがみられなかった。またゴールデンウィーク後の客の購買意欲の落ち込みも今年はあまりみられず、夏物衣料が順調に売れている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・5月は初夏物衣料や夏物衣料の通常価格での実売期であり、例年であれば6月の売り尽くしセールを控えて、客の買い控えが見られるが、今年はそうしたことがなく、通常価格での商品販売が非常に好調である。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・現時点での売上高は前年比98.0%と前年を下回っているものの、今年に入ってからの売上は各月とも前年実績を上回っており、ややよくなっている傾向にある。また、買上客数についても同様の傾向にある。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温上昇にともない、来客数が増加している。特に行楽需要の高さから、ロードサイド付近の店舗での来客数の回復が目立っている。
		衣料品専門店（店員）	単価の動き	・実売期に入り、前月と比較して買上客数は増加しているものの、前年と比較すると大きな差はなく、客単価でみるとむしろ低くなっている。
		家電量販店（地区統括部長）	お客様の様子	・当地では地上デジタル放送の試験放送が5月から始まっており、客の興味がより強くなっている。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・展示会等での来客数が増えてきている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・地産地消をテーマとした海産物フェアが客のし好にマッチしたのが、4月、5月と来客数の伸びが顕著になっている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチではゴールデンウィーク後から女性のグループ客が目立つようになり、ランチの売上は前年比120%となった。夕食では来客数が減ったものの、本州企業のビジネスマンを中心に高額メニューの注文が増え、客単価が上昇したことから、売上は前年並みとなった。ただし、従来からの顧客が激減しており、客層が変わってきている。個室では一部の企業の利用が好調であり、前年実績を上回った。昼は余裕のある主婦層に、夜は企業などの団体に支えられ、全体の売上は前年実績を上回った。
		観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・依然として旭山動物園、知床の世界自然遺産が集客要因として大きいのが、本州からの団体客の入り込みがやや足踏み状態になっている。宿泊客数は堅調だが伸びない。その半面、宿泊単価の高い客層が増加しつつあり、宿泊客数の伸び悩みをカバーしている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・来客数、単価とも昨年実績を上回っている。最大の要因は、昨年の愛知万博による影響が今年は見られないということである。また、ゴールデンウィークの曜日配列が良かったことや、本州地区での景気回復の余波が函館にもわずかながら影響していることも要因として挙げられる。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・道内客の動きは鈍いが、本州客の動きが活発になってきている。昨年あった愛知万博の影響がないことや本州企業の招待旅行が増えてきていることで、よくなっていると感じる。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・道内の宿泊需要が増加傾向にあり、7月から8月にかけての夏休み旅行の申込が例年になく早い動きをしている。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・個人客は横ばいであるが、団体客が好調に推移している。		

	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・来客数が増加している。
	美容室（経営者）	単価の動き	・客単価が前年よりも3%程度上昇してきている。新商品への関心度も高くなってきた。
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク前半は良かったが、中旬以降はその反動で人の動きが鈍くなった。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・夏物のシーズンに入り、少しは商品に動きが出てきているが、客は先行きの不安を払しょくできず、まだまだ慎重な買い方が続いている。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・一人当たりの買上単価が低いままで推移している。
	一般小売店〔土産〕（店員）	お客様の様子	・春先から団体旅行客が減少して、個人旅行客が増加しているが、個人客は団体客よりも購買数量が少なく、購買金額も低いいため、来客数が伸びているにもかかわらず、売上の増加に結びついていない。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・例年に比べ、企画面や天候面等でマイナス要因がいくつかある中で、販売部門ごとの差はあるものの来客数や売上ともに大きく数字を落としていない。ただし、客の買物の様子には慎重さがうかがえる。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・中旬以降、天候が良くなり、夏物商材がよく動くようになった。クールビズの関係でボタンドアンのワイシャツなど、シャツ関連の動きも少し良くなってきている。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・母の日が前年よりほぼ1週間遅くなったため、洋品などのギフト需要が増加するというプラス要因があったが、その一方で、冷涼な気候であった前月から気温が急激に上昇したため、婦人衣料の売れ筋が変化するというマイナス要因もあった。ジャケットについては麻素材の商品が伸びるも全体では前年割れとなったほか、カットソーなどの単品購入が増え、客単価の押し下げ要因となった。
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・気温の低い日が長く続き、春物商材を中心に動きが鈍い状況が続いていたが、ゴールデンウィークを過ぎたあたりから気温も平年並みに上がっており、行楽商材を中心に少しずつ動きが出てきている。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・昨年の同時期と比較して、客単価が低下している傾向が続いている。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・暖かくなり、商店街への人出も増えているが、販売量となると大きな変化は表れていない。
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・先月に引き続き、販売量が冷え込んでいる。1月中旬以降の悪い流れが続いている。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・前年と比較して、来客数に変わりはないものの、売上は増加している。当地での地上デジタル放送開始が間近に迫っているため、薄型テレビに対する購買意欲が高く、よく売れている。
	乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・来客数が少なく、売行きが極端に良くない状況が続いている。同業他社においても同様の状況である。
	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・小型車の比率が高くなっているため、売上が減少している。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が高値で安定しているため、客の1回当たりの購入金額が少ない。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・売上の85%を占める軽食コーナーは前年比116%と、ランチを主体に好調が続いている。コース料理コーナーは前年比でほぼ横ばいである。観光シーズンに入り、今年は昨年に比べて観光客の多さが目立っている。
スナック（経営者）	単価の動き	・今月はゴールデンウィークがあったため、稼働日数が少なく、売上が減少しているものの、来客数の割には売上が良く、客単価が若干上昇している。	
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊人数は前年と比べマイナスとなっているが、総消費単価は前年実績を上回っており、全体の売上高は前年並みで推移している。	

		タクシー運転手	お客様の様子	・北海道の場合、雪解けとともに極端にタクシーの需要が減るため不況を感じる。またススキノ飲食店の経営者の話を聞くと、大衆居酒屋の客足はまずまずであるが、スナックやクラブ等は閑古鳥が鳴いているそうである。
		タクシー運転手	販売量の動き	・道東地区では、夜の繁華街が閑散としており、大変厳しい状況となっている。勤めているホステスもタクシーを使わず自家用車で通勤しているほどであり、空車のタクシーがあふれている。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・少額物件はある程度でているが、高額物件の販売量が落ち込んだままの状態が続いている。
		住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・数社の取引業者から他社の仕事も少ないと聞いている。
やや悪くなっている		スーパー(店長)	販売量の動き	・気温の低下が影響しているのか、行楽関連商材の販売量が前年を大きく割り込んでいる。またゴールデンウィークの人出が予想以上に少なく、食品の売上にも影響を及ぼしている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・5月はゴールデンウィークの売上失速に加えて、中旬には近隣に競合店が新規オープンした影響から、現時点の販売量は前年比87%と非常に悪く、これまでの上向き傾向に歯止めが掛かっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・5月はゴールデンウィークがあり、休日が多いため、タクシーの売上が一年で一番悪い月である。観光客も、最近は観光タクシーではなく、レンタカーを利用することが増えている。また海外の観光客は、ほとんどタクシーを利用しない。
		住宅販売会社 (経営者)	それ以外	・売上は横ばいだが、原油高等の影響で色々な経費が増えて、収益を圧迫している。
悪くなっている		その他専門店 [医薬品](経営者)	お客様の様子	・1か月の買上客数が3年前と比較して1000名も減少するという事態が起こった。これまで顧客の差別化やイベント実施による買上単価の上昇でしのいできたが、限界となっている。業界そのものが低迷している。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・5月も観光客が多く来ているが、ゴールデンウィーク後は飲食店街への来客が非常に少ない。
企業動向関連	良くなっている	その他サービス業 [システムハウス](経営者)	取引先の様子	・東京からの受注が消化できないほど増えている。
	やや良くなっている	輸送業(支店長)	取引先の様子	・建築資材関連業界においては、受注残を大きく抱えて業績を伸ばしている会社と、仕事量の減少で経営が悪化してきている会社が、はっきり区別できるようになってきた。また物流業界、特にフェリー業界等では、航路からの撤退が噂されている企業がある反面、堅実な経営を行っている会社があるように、二極分化がはっきりしてきた。
		その他サービス業 [建設機械リース](営業担当)	受注量や販売量の動き	・マーケット的には変化はないが、営業活動の効果で受注量が増えている。
		その他非製造業 [機械卸売](従業員)	受注量や販売量の動き	・3月に鋼構造の建築物の着工量が増加し、その影響で消耗資材、生産財とも若干上向き傾向を示している。ただし需要のバロメーター役の一部の消耗品の動きは良くなく、安定した需要増とは言い難い。しかし、その反面、金属加工業全般で設備投資意欲が上向きになってきているなど、明るい兆しも出ている。
	変わらない	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・個人需要は伸びてはいるが、請負需要が低調である。
		金融業(企画担当)	それ以外	・設備投資は大手製造業の工場建設効果が波及し、道内中堅企業の能力増強投資が増えてきた。住宅投資は分譲マンションの着工が一巡し、耐震強度偽装問題の影響から売行きも鈍る。公共投資は減少基調が続いている。個人消費は、消費者の節約志向に変わりなく弱めの動きにある。
		司法書士	取引先の様子	・時期的にも住宅建築や土地取引が多少活発化するものと期待していたが、そうした動きがみられなかった。

	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・客先は経費削減などを主眼に置いており、依然として投資意欲がみえない。必要最低限の設備については、中古などで対応しており、商談自体が小粒となっている。
やや悪くなっている	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・大手荷主は好決算の様子であるが、北海道の地方では元気のある荷主も数えるほどであり、ほとんどの荷主が現在の燃料油高騰にもかかわらず、もっと安くないかと言うような状況である。
悪くなっている	司法書士 輸送業（経営者）	取引先の様子 取引先の様子	・土地や建物の移転登記や建築物件等が少ない。 ・先月に引き続き、燃料の高騰が相当響いている。高値で安定しており、現状も今後もダメージが相当大きくなる。
雇用関連			
良くなっている			
やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・企業において中途採用の動きが出てきている。事務職の派遣も堅調に増加しているが、特に販売にかかわる人材の派遣需要がおう盛に推移しており、企業活動の活発化がうかがえる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・業種を問わず、求人が増加傾向にある。また、数年間求人のなかった企業からの正社員ニーズがみられるなど、景気好調に伴う人材不足感を感じさせる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者が3%程度減少しているのに対して、新規求人が相当増加している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の新規求人数は前年比で0.6%減少したが、前年同月が2けたの伸びであったことや、新規求人数が13か月連続で改善していることから、全体としてはやや良くなっている。
	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・採用試験がスタートしており、第一次の試験結果まで出ている企業が多い。既に10数社から内定をもらった学生もいる。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告の受理件数は前年とほぼ同数であり、公共投資が微減する中で、地域全体の雇用環境に大きな変化はみられない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で1.9%の減少とほとんど変わらず、有効求人倍率は0.51倍と前年同月より0.01ポイント上昇している。
やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の有効求人倍率は0.38倍で前年と比べて0.06ポイント減少している。また、パート求人の占める割合が40%を超えている。
悪くなっている			